鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【３年生】　授業改善推進プラン

	R7授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語	「はじめ・なか・おわり」の構成例の提示や発表の型の指導により、理由を付けて詳しく書く力や発言への意識が高まった。一方で、既習漢字を日常の文脈で正確に活用することや、豊かな語彙を用いて自分の考えを的確に言語化する力には個人差が残る。	新出漢字の小テストを定期的に行っているが、結果が低く定着していない児童がいる。また、単元の最後に新聞やポスターにまとめる活動を通して、調べたことや学んだことを文章に書くことはできているが、得た情報を整理し、自分の考えや感想を分かりやすく的確な言葉で表現することに課題がある。	読解では気持ちや行動が分かる箇所にサイドラインを引き、叙述を基に読み深めさせる。漢字テストは事前予告し、計画的な反復学習を促す。作文指導では教師の例や友達のよい表現を提示して語彙を広げ、メモを活用した構成の組み立てを行うことで、自分の考えを分かりやすく書く力を育成する。
算数	対話的な活動による解決方法の比較や振り返り時間の確保により、図や式を用いて自分の考えを表現する姿が広がった。しかし、計算チャレンジ等の反復による九九の確実な定着や、文章題の場面を正しくイメージして立式に結び付ける力には課題が残る。	少人数指導を行っているため、基礎的な計算問題を解く力は身に付いてきているが、児童間の学力差が激しい。特に、文章問題が苦手な児童が多く、問題の場面や条件を正しく読み取って、数量の関係を適切に式に表したり、図や言葉を用いて自分の考えを説明したりすることには大きな個人差と課題が見られる。	家庭学習でその日に学習した内容の反復に取り組むことを継続し、基礎学力の定着を図る。文章題においては、児童が問題場面を視覚的にイメージしやすいようなICT教材等を活用する。対話的な活動を通して解決方法を比較・検討し、クラス全体で多様な考えに触れながら学びを深める時間を確保する。
社会		中原地区や三鷹市についての学習など、自分が知っている身近な事象に対しては興味・関心が高い。しかし、見学活動や資料を活用して必要な情報を調べたり、調べたことを関連付けて整理したりすることに課題がある。また、分かったことや気付いたことを基に、自分の考えを言葉や図表で表現する力も不十分である。	見学や調べ学習の前に、疑問に思ったことや自分で調べたいことを考える時間を設け、目的意識をもつ。単元の最後には、調べた事実と自分の考えを整理して新聞やポスターにまとめる活動を位置付ける。情報を比較・分類するワークシートを工夫し、分かったことを相手に分かりやすく表現する力を伸ばす。
理科		一人2つの植物を育てることで、成長の様子や世話の仕方を体験的に学ぶことができている。また、観察や実験には意欲的に参加している。実験結果を整理してまとめたり、そこから何が分かるのかを科学的に考察したりすることが十分ではない。	実際に自分で観察する活動と、ICTを活用して調べたりまとめたりする活動を併用する。実験を行う際は、何のための実験なのか（目的）、何を比べるのか（比較の視点）を明確にして学習を進める。観察記録を基に対象の共通点や相違点を比較して考え、事実から結論を導き出す習慣を身に付けさせる。
音楽	リズムリレーや歌唱の工夫の伝え合いにより、拍に乗って楽しく表現する態度や音楽への親しみが定着した。一方で、鑑賞において曲の盛り上がりや強弱を感じ取り、その良さを自分の言葉で味わい説明することには個人差が見られる。	歌唱やリコーダーなどの活動に前向きに取り組む児童が多く、自分なりの旋律や音楽を作って演奏することができている。しかし、リコーダーのタンギングを正しく習得できている児童はまだ少ない。また、鑑賞において、感じ取った曲の良さや変化を、音楽を形づくる要素と結び付けて言葉で表現することが難しい。	リコーダー指導では、基礎的な技能を確実に身に付けられるよう、スモールステップで反復練習を進める。また、これまでの学習を確認できる教材を指導計画に組み込む。鑑賞活動では、感じ取ったことを表す言葉の選択肢をいくつか提示し、音楽を聴き取った事実と自分の思いを結び付けて表現できるようにする。
家庭科			
図画工作	板書による手順の可視化やICTを活用した作品鑑賞により、見通しをもって主体的に制作を進める児童が増加した。一方で、はさみ・カッターナイフ等の用具の安全かつ確実な扱い方や、自らイメージを豊かに膨らませて表現する力に課題が残る。	多くの児童が意欲的に制作に取り組み、様々な道具や材料に関わることを楽しんでいる。しかし、すでに経験している用具（はさみ等）や材料の扱いに課題が見られる児童が多い。また、色や形の特徴に関心をもち、自らのイメージを豊かに膨らませて、独自のアイデアを作品に表現していく力には個人差がある。	はさみやのりなど、様々な材料や用具の特徴や正しい使い方について考え、試行する機会を設けることで、他の活動でも活用できる技能を定着する。色や形の特徴に着目しながら鑑賞活動を行い、自身の作品に生かしていく力を養う。制作途中で互いの作品を見合う活動を取り入れ、多様な発想に触れる。
生活	1年生や地域の人々と関わる体験活動を多く設定したことで、協力して学ぶ楽しさを味わい、自己肯定感の高まりが見られた。しかし、観察した対象の変化や気付きを、自分の言葉や絵で詳しく具体的に表現・整理する力には継続的な支援が必要である。		
体育	準備の効率化による運動量の確保やタブレット端末での動作確認により、良い動きを共有しながら意欲的に技へ挑戦する姿が育った。一方で、児童間における基礎的な運動技能の差の解消や、勝敗を受け入れ互いを認め合う態度の育成が今後の課題である。	基本的な運動やゲームには意欲的に取り組んでいるが、ルールや勝敗を受け入れられずトラブルになる児童がいる。また、運動に対する切実なめあてをもつことが定着しておらず、自己の技能向上に向けた課題意識が低い。児童間における基礎的な運動経験の差から、特定の動きに苦手意識をもつ児童も見られる。	ICT機器や学習カードを活用し、運動の基本的な技能ポイントや、互いの動きを見合うときの視点を明確に身に付けさせる。勝つための作戦を考えたり、仲間を生かす工夫や励ましの声かけをしたりするなど、技能以外の関わり合いや過程の重要性を理解させ、勝敗を素直に受け入れられるよう段階的に指導する。
外国語		歌やチャンツ、カードなどを通して、英語の音声やリズムに慣れ親しんでおり、自分の状態や好きなものを伝え合おうとしている。また、ALTとも物怖じせずにコミュニケーションをとることができている。しかし、相手の言っていることを推測して理解したり、やり取りを継続させたりする力には個人差がある。	指示や挨拶に対して、動作やジェスチャーを交えて応答できるようにし、児童同士でやり取りをする機会を日常的に増やす。ボディランゲージや声色、表情、絵カードなどを有効に使いながら、英語の音声だけでなく視覚的な情報（言葉以外からの情報）を基に、相手の話している内容を推測する力を身に付ける。
道徳	身近な日常の出来事を導入に用い、意見交流の場を位置付けたことで、課題を自分事として捉え多様な考えに触れる経験が深まった。しかし、友達の考えと比較して自分の内面を深めたり、学んだ価値観を実際の生活行動に結び付けたりする力には課題が残る。	読み物資料や役割演技を通して、登場人物の気持ちや考え、課題などについて多面的に捉えようとする姿勢が育っている。しかし、それらの課題を自分事として捉え、自分はどうであったか、自分ならどうするかと自己を見つめ直したり、自分の意見として理由を付けて伝えたりすることには、依然として個人差がある。	導入や終末において児童の日常生活での具体的な場面を用いることで、教材の課題を自分事として捉えられるよう工夫する。道徳の授業で考えたり学んだりした価値観を、道徳の時間だけにとどまらず、他教科や学級活動、学校行事などでも活用・実践できる場を設定し、児童の日常における道徳的な実践力を養う。